

公表

事業所における自己評価考察票

○事業所名	大崎むつみの里第2事業所（保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	2025年10月10日		～ 2025年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2025年10月10日		～ 2025年10月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	2025年 10月10日		～ 2025年10月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士、児童指導員、作業療法士の資格を持ち、経験の長い職員が多い。	保育所等訪問担当職員同士が、お子さんにとってより良い支援ができるよう職員間で共有し、相談できる体制を取っている。	園内での定期的な訪問支援担当者の会議を設ける。ケースについての検討などを行っていくことで職員の質の向上を目指す。
2	地域の保育園、幼稚園との連携。	訪問支援を通して園での様子を伺い、園の先生との話し合いを通して、適切なアドバイスを伝えるよう心掛けている。園側にも児童発達支援センターを知ってもらえるよう、緑区内の全保育園、幼稚園に見学会のご案内を行った。	お互いの園を理解したうえで連携していけるよう、引き続き見学会を開き、ご案内していく。
3	事業団内の保育所等訪問支援事業所を対象とした、勉強会や実務担当者会議を実施している。	各園の担当者間で、現在の課題や各園の状況を話し合える機会を持ち、テーマを決めて研修を受けられる環境を整えている。	今後、小学校への訪問が開始されていくことも踏まえて、学校への見学や研修を実施し、職員の育成に努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者向けの勉強会などへの参加の機会が少ない。	訪問支援のみご利用の方に保護者対象の勉強会への周知が徹底していなかった。	お仕事をされている保護者も多いため、電話連絡だけでなくメールも活用し、勉強会について全保護者にお知らせができるようにしていく。
2	保育所等訪問職員の育成	通園の担任も保育所等訪問支援を行っているため、複数で訪問支援に出かけることが難しい状況もある。	保育所等訪問支援の担当職員だけでなく、他の職員も勉強会等に参加していくことで、大きな集団の中での支援が必要なお子さんについて学んでいく。訪問に同行する機会を設けることで、次代の育成をしていく。
3			